

第2回 水害対策調査特別委員会

令和4年4月22日（金）

午後1時30分～午後1時49分

議会第1会議室

【出席委員】黒田利人委員長、平原嘉徳委員長、福井章司委員、重松 徹委員、
村岡 卓委員、御厨洋行委員、江口善己委員、川崎健二委員、
藤田佳典委員、諸富八千代委員、稲葉嵩広委員

【欠席委員】実松尊信委員

【委員外議員】なし

【執行部出席者】なし

【案 件】

・調査範囲について

○黒田委員長

皆さんこんにちは。大変新型コロナが何日続けてずっと500人台が続いておりますが、いろいろの中でも、粛々と特別委員会を始めたいというふうに思います。

前回の委員長副委員長の互選が第1回でございましたので、第2回の水害対策調査特別委員会を今から始めたいというふうに思います。実松委員から体調不良のために欠席したいという申出がっております。

それでは、式次第はタブレット中に入っているというふうに思いますが、皆さんお聞きいただいたでしょうか。式次第どおりに進めたいと。よろしく願いをいたします。それでは第一項目でございますが、調査範囲についてであります。別紙参照のとおり、水害対策調査特別委員会の調査の進め方（案）について、御提案をしたいというふうに――、代表者会議では、多くの会派から、内水氾濫をメインとしたほうがよいという意見がっております。また、調査範囲につきましては、山間部から平地までを範囲にすると、広くなりすぎるのではないかという意見があり、絞ったほうがいいんじゃないかということで、樋門の操作などに関するものがないのではないかという意見があったと。排水対策のほかには、排水対策基本計画が今、御手元にあると思いますが、令和2年6月に改訂版が作成されており、それをもとにして、ハードの整備のチェックや検討を行ったほうがよいという意見もあったと。これらのことから、前回の委員会では、土砂災害も含めた調査範囲となっていたが、今回の委員会では、近年の大雨による冠水の状況を鑑みると、中心市街地の内水氾濫に絞ったほうがいいのかどうかというふうに思っております。また、防災につきましては、範囲が広がり過ぎないようにするため、当初は、水害時の危険箇所の把握や、担当課から危機管理防災課への情報提供・伝達などを調査したらどうかと考えているところではありますが、いかがでございましょうか。何か御意見。こういう範囲で進めたい

というふうに思いますが、いかがでしょう。

○村岡委員

はい、調査範囲としてはおおむね、先ほど委員長がお示しいただいた範囲でいいのではないかなというふうには考えております。ただ、あくまで内水氾濫をメインとするということで、今、図らずも中心市街地という言葉がありましたけども、内水氾濫の分野では、大和の川上校区、地域でありますとか、あと、金立、久保泉のほうですね、そういったところも、あくまで内水氾濫という判断で、含めていただければなというふうに思いますけども。

○黒田委員長

それはもう、いろいろ地域、地域で、内水氾濫を起こしているところもございますので、それについては、対象に入れたほうが良いと思っております。

○村岡委員

ありがとうございます。

○黒田委員長

ほかにございませんでしょうか。

○重松委員

この基本計画の改訂版なんですけども、実際、この計画案はハード対策とソフト対策で構成されておって、大体、短期中期長期、ずっとこう段階別に講じられておるんですけども、浸水数面積を大体50%削減まで持ってくるということを目標にされているわけですよ、これね。おおむね短期対策を、順調に推移していると。今現在、一定の浸水軽減効果は、あらわれていると、前回の水害対策の時言われていました。実際、どういったことでそういった軽減効果があったかというのと、やっぱり、佐賀城のお堀とか、農業用水路の事前排水とか、あとの対策を講じておるということなんですけども、執行部に対して、一遍、今の段階でどれぐらい、同じ判断・効果があるような軽減対策が出来ているのかですね。

○黒田委員長

現状ね。

○重松委員

まず、現状聞いたほうがよかですよ。

○黒田委員長

今の件につきましては、後ほど検討いたしたいと思しますので、ほかにございませんでしょうか。

○福井委員

今、委員長おっしゃったように、調査範囲として内水氾濫ということで、あと防災についての伝達関係もそういう形でいいと思います。

○黒田委員長

ほかになければ、調査範囲につきましては、今、重松議員が言われました件につきましては、今後の調査の過程で明らかにしていきたいというふうに思いますので、よろしくお願ひします。

それでは、次に、特別委員会の進め方についてであります。特別委員会の役割ですね、調査範囲等の確認でございますが、御手元の資料で、特別委員会の調査範囲については、確認いただきたいと。特に調査範囲の4で、付託継続審査中、委員の一般質問は原則として行わないということになっているため、特別委員会の調査範囲に関する一般質問は出来ないということで、御留意いただきたいというふうに思います。よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

異議なしということで、このように図りたいというふうに思います。

それでは、委員会の運営の方向性についてですが、1番目に、調査内容及び調査の進め方についてであります。御手元の水害対策調査特別委員会の調査の進め方(案)に、先ほど1の調査範囲のところで議論しましたが、本委員会での調査事項として考えられるものを、2、調査内容として示している。今後はこの調査範囲をベースとして、執行部と随時協議を行い、事業の進捗に応じ調査を行っていくとし、また、視察等を通じた議会独自の調査や、必要であれば関連機関、団体等との意見交換についても調査を行っていくことにしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

また、議案によっては、各常任委員会の所管との関連が出てくる可能性がある。その際、各常任委員会の正副委員長と本特別委員会の正副委員長で、随時協議を行うこととしたいと思いますが、それで、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

はい、次に調査報告でございますが……。

(「質問等はできるのですか」と呼ぶ者あり)

このことについてですか、今、この委員会への方向性と調査内容及び調査の進め方についての質問ですか。

○川崎委員

すいません。自分、3年前の水害の時、その後、ボランティアで修復にお手伝いしたんですけども、1番ショックだったのは、水害そのものより、そのあとに車が家の前を通過して、その水が家に押し寄せてくると。家の前にはプロパンガスのボンベがあるんだけど、それが流されて壁ごとに全部持っていったという、それを聞いて私はもう愕然としました。それで、この場合の調査ですけれども、ポンプが強化されない以上は、大きな水害対策の改善は見込めないと思います。したがって、いかに被害を少なくするかが、大切ではないか。その場合の被害というのは、私の頭で考えている被害というのは、一つは車の水没。

それから、そういった車が通ることによって家屋の破損です。もう、床上浸水、床下浸水はもうどうしようもないと思うんですね。たださっきの二つは、何らかの方法で防げると思うんです。したがって、そういった部分の調査を、加えていただけないだろうか。そして例えば、大雨が予想されたら、車をここに退避させたらいいよとか、車の止め方、自治会長さんに、ここをとめるようお願いしようとか、そういったのがあらかじめできれば、被害をかなり軽減できると考えます。以上です。

○黒田委員長

今のですね、状況はよく私も理解をしますが、要するに、先ほど提案しましたように、樋門の水が結局は増えるわけですから、それをどうするかっていう、調査をまずして、そしてどこが問題なのか、そこの処理の問題でどうなるのかというのをしながら、今言われた問題につきましては、当然、水害による、水没による被害でしょうから、それは、段階的に進めてまいりたいというふうに思います。それは、この中に含まれますので、そういうことでようございます。はい、ほかにございませんか。なければそういう形でやりたいというふうに思います。

次、調査報告書でございますが、上記の調査等を終えて、最終的に調査結果及び提言等をまとめた、調査報告書を議長に提出することになります。委員会設置期間は調査終了までとなっておりますが、先ほど決定いたしました調査範囲を勘案すると、めどとして2年程度と考えていますが、いかがでしょう。というのは、ちょうどメンバーが2年で交代をしますので、ある程度……、それが最終になるのか中間になるのかわかりませんが、一応くりたいというふうに思います。どうしてもそのあと続ければ、過去にもございますが、続けてほしい旨、中間報告の中に入れるとかいう形になりますので、そういう運びでやりたいと思いますがいかがでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

異議なし、ということで、そう行きたいと思います。次に、3番の、今度の特別委員会の開催についてであります。次の委員会日程を皆さんにお諮りしたいと思います。まず、市内の状況を確認していきたいと考えております。満潮時、どのぐらいの水位が上がってくるのか、有明海からですね。情報を共有するために、市内要所の現地確認をしたいと考えております。そこで、潮の関係から、5月20日金曜日の午前中に行いたいと思いますが、皆さんいかがでしょうか。いいですかね。金曜日ですね。5月20日。

○藤田委員

午後から議員研修があるので、その前ってことですね。

○黒田委員長

そういうことを踏まえて、午前中ということにしております。皆さん、恐らく来られるということで、恐らく出張とか、視察とかというのはないだろうということで、日程を組みました。特にこの潮の関係は、佐賀には避けられない問題でありますので、それで雨が

降ってどのぐらいになるのか。聞くところによりますと、八田江が恐らく満潮時は樋門が閉まっていると思います。そういう状況を見たいなど。というのは、雨が降りますと、それから下にも流れませんので、上からくるとばっかりですから、そのときどうするのかというのを見たいというふうに思います。

○福井委員

その時間というものは、大体時間分かるやろ。

○黒田委員長

大体、9時半ぐらいから12時くらいまで。長くて12時半くらいまで。

○福井委員

9時半にここ集合して、そこから行くとやろ。それで、満潮に間に合うってということやね。

○黒田委員長

何か所か主だったところをちょっと。それと樋門と、よく言われます、お堀のね、周辺の状況も、踏まえたいというふうに思いますので、

(発言する者あり)

それと蒲田津、枝吉とか、佐賀江にかかる……、

(「いくつかあるでしょ、あと」と呼ぶ者あり)

大井手堰とか枝吉樋門とか、蒲田津、本庄江。ちょっと終わりの状況ということで、大体、2時間半程度ということですのでしておりますので、よろしく願いをいたします。服装は、皆さん防災服は持ちちゃったかな。持ってあるなら、防災服に統一しましょうかね。作業服じゃ恐らくあいしますんで。防災服にしましょう。では、新人議員も持ってあるなら、防災服ということで。

(「天候にもよるしね」と呼ぶ者あり)

それが1番でしょ。現地視察ですから、そういうことでお願いしたいと思います。

現地視察までの間に、委員会の中で特に調査が必要な案件が出ました場合は、開催日については、また協議をしていきたいというふうに思います。特になければ、通常開催予定としては、執行部に事業の進捗状況を確認し、定例会と定例会の間に委員会を開き、次の定例会において、委員長報告を行うこととします。

次に、先進地視察の件でありますけれども、何かここを見たいというのがあれば、お聞きしたいというふうに思いますが。なければ、こちら大体、当局とか、そんなものを含めて検討して、時期につきましては、皆さんも御承知のとおり、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて——、実を言うと今の時期では立ちません。ただ、近々行政視察をするということはないということで、出水期を除き再度委員会を開催して、検討したいというふうに思います。大変、これ相手のあることですから。こちらがよかったら向こうが感染が……、今佐賀がですね、実を言うと感染ですね、大変多い、全国で2番目という不名誉な

結果でありますので、それを含めて、行政視察については検討したいというふうに思います。それでは、委員からこのことについて何かあれば。

○江口委員

川の満潮時間は調べてあるのでしょうか。

○黒田委員長

はい、その日程に合わせました。

ほかになれば、これで第2回の水害対策調査特別委員会を終わりたいと思います。大変御苦労さまでございました。

令和 年 月 日

水害対策調査特別委員長 黒 田 利 人